



第 29 号
2002 年 06 月

ネパリ・バザーロ だより



ベルダレルネーヨ通信

ネパリ・バザーロは、ネパールを中心としたアジア諸国のハンディクラフト製品や食品の企画、開発を行い、継続的に輸入を続けることによって就業の場の拡大をめざすフェアトレード団体です。立場の弱い人々、女性、子どもの自立を支援し、貧困の課題改善に取り組めたらというのが私たちの願いです。母体となる市民グループ（NGO）、ベルダレルネーヨ（ネパールの女性の自立と子どもの育成支援の会）のトレード部門として1992年から活動しています。1998年2月からは、地球市民かながわプラザに直営店「ベルダ」をオープンして第三世界からの品々をご紹介します。

フェアトレード
活動紹介
ニュース・レター



ネパリ・バザーロは、IFATに所属し、国際的な協力を得ながら、フェアトレード運動による社会貢献を目指しています。

IFATは、フェアトレードの国際組織で、ILO(国際労働機関)のオブザーバ、IFOAM(国際有機運動連盟)の准会員でもあります。



特集

1

フェアトレードの現場とその想いシリーズ その8 特別記事:ネパール便り特集

「ネパールの現状と生産者の状況」

奨学金への動機、ジャングルに入る苦勞とマサラティーの発売

土屋春代 / 編集部 p.2

- | | | |
|--------------------------------|--------------|------------|
| ◆ 「カンチャンガ」紅茶農園とその社会への貢献」セミナー報告 | 矢島万知子 | p.6 |
| ◆ 展示会・懇親会に参加しての感想あれこれ | 編集部 | p.7 |
| ◆ 国際ボランティアを考える集い/国際フェアトレード・デイ | 太田昌治 / 北山詠美子 | p.8 |
| ◆ 神奈川県立総合高校の国際理解教育とフェアトレード | 土屋完二 | p.9 |
| ◆ 現地スタッフ紹介(私の抱負) | ジャリーナ・シュレスタ | p.10 |
| ◆ スタッフとして日々感じること | 入澤崇 | p.11 |
| ◆ お知らせ・編集後記 | | p.12 |

<ネパール便り特集>

ネパールの現状と生産者の状況

奨学金への動機、ジャングルに入る苦勞とマサラティーの発売

土屋春代 / 編集部

今まで「生産者を訪ねて」、「フェアトレードの現場とその想い」で、一緒に仕事をしている生産者の横顔をご紹介してきましたが、今回からネパール出張の時にあった事、感じた事を「ネパール便り」として、いづれかを、または、同時に、時に応じてお届けしていきたいと思います。

昨年6月の国王一家殺害事件後、ネパールの状況は恐れていた通り悪化を続け、数ヶ月でも大きく変化してしまう中で、どのようにしたら皆さんに生産者の現状、抱えている問題の全体像をお伝えできるかと考えました。

生産者の状況に的確に合わせるためにこれまで以上にネパールに行くことが多くなるので、その時にあった事、感じた事をできるだけお伝えしていこうと思います。

【2002年4月】

◆レブチャ・プロジェクト

カトマンズは今日、23日から5日間のゼネストに入り、店は閉まり、車は動かず、街はいつもの喧騒がうそのように静かです。

ネパールの東、紅茶で有名なイラムという地域に住む少数民族レブチャの子どもたちの教育支援で、家庭から自力で学校に通わせることのできない子どもたちに今年から奨学金を出すことになり、年間の費用として1人日本円で約1,700円を10人分送る手続きをしました。私たちのカウンターパート団体の口座がある銀行は電話もFAXも壊されていて、誰かカトマンズからその銀行まで送金証明を持参しなければ現地で受け取れないという連絡が先ほど来ました。カトマンズからレブチャの人たちの村に行く人を見つけ、証明書を渡してもらう算段をしなければなりません。



奨学金他の打合せ：ランさん(左端から2番目)

今、ネパールはマオイストという集団が現在の体制に抗議して各地でインフラ破壊、役人、警官、教師などの殺害を続け、政府軍隊、警官と激しく衝突して、双方に毎日多くの死者が出ています。交通の要所には検問所が設けられ、行き来にも支障が出て、イラムまでバスで普通なら十数時間の道が倍近く掛かることもあります。先日は西ネパール、ダン郡でローカルバスも襲撃を受け、一般人の死者も数人出てしまいました。

レブチャ・プロジェクトを私たちと共同で推進しているサバナさんは「1週間以内に村に行く人を何とか見つけるわ!」と請け負いますが、人々が恐れてあまり地方へ出掛けたがらない今、うまく見つかるだろうかと案じてしまいます。

新学年は4月の半ば頃からスタートし始めるので、あまり遅れると子どもたちが学校に行きづらくなってしまうのではと心配で、どうかうまく行きますようにと祈る思いです。



レブチャ・フォーラムへ今回寄贈した関連図書

ネパリ・バザール最近の活動

- 2002年02月 「紅茶農園と社会貢献」の公開セミナーを実施、全国各地からフェアトレードショップ多数参加
- 2002年04月 ネパール料理教室で、シーフードマサラを紹介
- 2002年04月 東ネパールのフィッカルにて少数民族レブチャ研究と絵本(ネパール語、英語、日本語)発行(2冊目)、奨学金、レブチャ・フォーラムの支援開始。
- 2002年05月 東ネパールのフィディムにて、紅茶農園に外部から働きに来ている生活の厳しい子ども達への奨学金開始
- 2002年05月 国際証明機関NASAAの認可を得て、オーガニック・マサラティーの生産、販売を開始。
- 2002年05月 西ネパールのダンで、ヘナの生産に成功(女性収入向上プロジェクト)



少数民族の民話を絵本にしたもの。昨年に続き2冊目。お話をしてくれる人も高齢になっているので、なるべく早い時期に書きとめていきたい。貴重な書物も古くなっているので、レブチャ・フォーラムでは保存に努力している。



フィッカルバザールでお店を出しているレプチャのランさん。レプチャの人々の生活向上のために活動されている。

フィッカル地区の中心、フィッカルバザール。



良質のヘナ生産に成功。その染め能力をテストするテスと土屋クリシュナさん（左）とクリシュナさん（右）



◆ヘナ・プロジェクト

西ネパール、ダン郡で進めているヘナ・プロジェクトのカウンターパート、ローカルNGOの代表クリシュナさんも、4月初め、私が来るのと入れ違いにカトマンズから村に帰ったのですが、彼の乗ったバスも危うく襲撃に巻き込まれてしまうところで、連絡があるまで無事かどうか心配でたまりませんでした。地方の電話局は壊されているところが多く、彼も電話が使える所まで数時間も掛かります。無事の知らせを聞いて本当にうれしく安心しました。

その後帰国直前にカトマンズに来てくれた彼から渡されたサンプルは昨年秋に作ったものより格段に良いもので、短い時間で直ぐに着色するパワーに大喜びしました。更に細かい粒子にする機械を探すことなど今後の目標を話し合いました。早ければ1、2年先には製品化できそうな期待が持てます。このプロジェクトが成功すれば遊休地の活用になり、成長の早い樹木で環境を守りつつ収入にも繋がる、しかも挿し木で増や

せ、根付くと数十年の寿命があり、女性たちの収入が長く得られる道が開けます。これまで10年近く村の生活向上を目指し、女性たちをグループ化し活動を続けてきたクリシュナさんの努力が実を結ぶことでしょう。

ヘナ・プロジェクト

目的：

タルー民族に属する50家族を対象に計画した現金収入向上プロジェクトで、ネパールで特に厳しい状態とされるタルーが住んでいる地域が対象。

状況：

タルー民族の90%は農業で生計を立てている。その内の70%は、わずかな土地しかないため、大地主の土地を借りて農業を行っている。その取り分は、大地主50%、その借地人が50%である。多くのタルーの子ども達は、牛の世話やホテル、レストラン、そして大地主の家で、いわゆる児童労働として働いている。40%の子どもは学校へ行く機会を持たない。もし、彼らの経済的状態が改善されるなら、全てのタルーの人々が子ども達を学校へ行かせることができるだろう。



西ネパールのタルーの女性グループ

ネパール、タルー族の村(西ネパール)にて。子ども達の後中央に見えるのがヘナの木



マオイストとは？

ネパールは1990年に民主化を果たし、新憲法を制定しましたが、実際には既得の権力を守ろうと抵抗する国王派や kongress に加え、人民主権を唱える左翼のULFの3派が対立し、妥協を重ねて生まれた玉虫色の憲法でした。毛沢東主義系のUNPM（広義のマオイストといえる）が、この1990年憲法を否定し、新たな憲法制定会議を要求しました。そのUNPMの中から、より過激に人民戦争を唱え、1992年に分裂したのが Communist Party Nepal-Maoist、現在勢力を拡大しているマオイストです。

マオイストは人民戦争の目的を、「封建制・帝国主義・買弁官僚資本主義・インド膨張主義に支配された国内反動勢力などと、ネパール人民との間にある根本的矛盾を解決する」と

し、不均等な発展の中で抑圧される人民のための抵抗を謳って、人民戦争を展開してきました。人民戦争の中心地は、西ネパールとゴルカの2箇所があります。

西ネパールは開発が遅れ、反体制運動が盛んです。1991年の選挙ではUNPMから9名も当選しました。危機感を感じた国王派や kongress が警察を送り込んで弾圧をはかり、一般の村人にまで及ぶ多くの逮捕者を出し、拷問を加えました。それが村人の憤りや抵抗を生み、マオイストを増やすことになりました。

ゴルカはマオイスト発祥の地ですが、西ネパールに比べ、首都カトマンズにも近く、開発も進み教育も広まっています。教育を受けた人がマオイストの人民戦争に加わっています。



紅茶農園 No3 にある農園事務所付近で、農園スタッフとともに状況を話した。右から3番目が現地スタッフのジャリーナ、7番目が写真担当の土屋。この機会を通じて、奨学金の検討も始めた。

◆カンチャンジャンガ紅茶農園

新芽の出る一番大事な時期の5日間のゼネストは紅茶生産者にとって大変な痛手です。新しく製品化を考えたマサラティーも昨年末に来る予定だった有機栽培証明機関の検査官が状況悪化を恐れて来るのが遅れ、また、スパイスを採りに森に入ろうとするとマオイストと間違われて軍隊に射殺される恐れがあり採取できないなど、様々な問題が発生しました。

国際有機証明機関の認証を受けたスパイスと紅茶だけで作られる「マサラティー」はそのユニークな特長から農園にとって競合力のある製品として大きな期待がかかっています。お客様からも注文が相次いでいますがずっとお待ち頂いています。私たちも気を揉みながら待っていました。子どもたちの奨学金支援の打合せに農園に行っていた、設立者で代表のディーバックさんが待望のスパイスを持ち帰ってくださりやっと発売に漕ぎつきました。

農園では組合員の地元農民だけでなく家も仕事もないアウトサイダーも受け入れています。彼等は食べていだけで一杯で子どもの教育までの力がなく、農園側も昨年から家族毎にひとりの子どものという条件で困窮している家庭の子どもの教育支援を始めましたが、必要としているたくさんの子どものを全てカバーすることはとてもできませんでした。

昨秋の農園訪問で実情を知って以来、私たちは子どもたちの教育支援を検討し、何度も話し合いを重ね、こ

の春から129人の子どもたちに奨学金を出すことになりました。学校に行けない子がひとりもいなくなることを目指すその支援で、農園やその地域の将来が明るく拓けることを願わずにはいられません。



NASAA のオーガニック証明機関の認可を受けたマサラティー。紅茶もマサラも、バイオ・ダイナミック（自然の摂理に合わせた農法）の栽培。フェアトレードなので、新鮮さも売りの一つだ。飲んだ直後の爽やか感の秘密はここにある。農園を流れる川に沿ってジャングルが延びている。自然、スパイスの宝庫でもある。



奨学金の打合せ。K.T.E.ディーバックさん（左端）、ネパリ代表の土屋（左から2番目）。P9 関連記事有り。



紅茶農園 No3 で作業していたサスワティさんからも、生活の様子を伺った。ここで働き、一家を支えている。写真を撮ろう、とお話をしたら、はにかんでポーズをとってくれた。お話を聞いたり、家を訪問したりしながら生活の様子を知る努力も活動の大切な要素だ。

マオイスト、最近の動き

マオイストは、日和見主義者を廃し、ゲリラ的活動を経て、1997 年以降は攻撃を全国規模に広げてきました。現在は、西ネパールのフムラ、ロルパなど8箇所に郡人民政府を設置し、徴税、選挙、裁判、教育など行政一般をマオイストが独自に行い、社会主義を実現しようとしています。

現在は首都カトマンズですら、土嚢を積んだあちこちの検問所でネパール軍が銃口を向けている緊迫した状況です。マオイストから多額の寄付金を要求されたり、地方ではマオイストに家族を拉致されたという話が当たり前のことのように語られるのを耳にします。しかし、マオイストの攻撃対象となる上・中流階級の人たちすら必ずしもマオイストを悪く言うわけではな

く、むしろ、現在の失業や差別の状況ではマオイストが勢力を拡大するのも当たり前で、政府が悪いという同情や共感があります。マオイストが単なる「ならず者」集団ではないということであり、つまりは解決が困難だということでもあります。

ネパールの民主主義はどうなるのでしょうか？ マオイストとネパール政府の激しい対立は、どこに終結を見つけるのでしょうか。今後、他国がどのような対応をするかも影響します。隣国のインドがこの混乱をどこまで許容できるのか。マオイストが中東とつながっている可能性もあります。軍隊が支配する軍事政権になる心配もあります。そうならないためにも、ネパール人自らにより、マオイストの動きを抑える世論を作り出していく必要があります。



マオイストの活動で危険になったアロー織物の村、サ
ンクワサバ。水曜日に開かれる市で物々交換する人々。

◆厳しい状況の中で

アローの織物、竹かごを作っているサンクワサバ、赤かごを作っているバグルンもマオイストの妨害で製品をカトマンズまで届けることが難しく、入荷の予定が立たないものも出てきています。

カトマンズ市内や周辺でも警官が殺されたり、バスが爆破されたり、政府高官の家が放火されたり、役所に爆弾が仕掛けられたりという事件が増え、日常化してしまったよ、と皆は言います。

危険地域情報で観光客が激減し、ホテルもレストランも閑古鳥が鳴き、みやげ物屋はやるせなく外を見ているだけ。観光収入が大きな割合を占めていたこの国にとっていつまで続くのか分からないこの抗争は貧しい人々により大きく深刻な打撃を与えています。

2月のセミナーにお呼びしたカンチャンジャンが紅茶農園のディリーさんもこの状況は貧困が原因で起きたと断定しました。

外国から集まる援助金が地方に正しく分配されず、中央の権力者やそれに繋がる人々に集中し、不満、怒りの蓄積が暴力となって破壊に走らせていると。

ネパールの85%以上を占める農民が、ヒマラヤという財産を持つこの国で育まれる多様な生産物の適正なマーケットを見つけられさえすれば極端な貧困は改善され、外国からの援助もそれほど必要ではなくなり、自分たちで生きていけると彼は言います。

紅茶、コーヒー、スパイスなどずっと輸入を続けている私たちはその言葉にどれほど励まされたことで

しょう。新鮮で安全、おいしいこれらの産物を買いつけることで生産者の人々の生活が向上し、私たちの健康にも良いのはうれしいことです。

今年の秋は手漉き紙を家の内装、壁紙として使う動きを特集し、シックハウス問題や建材のリサイクル問題を考えようと思っています。

私たちの利害が途上国の人々の生活を脅かすのではなく、双方の健康、環境に役立ちながら続けていけるライフスタイルを考え、提案するフェアトレードを目指してこれからも努力を積み重ねていこうと思います。

【2002年5月】

5月2日から始まった西ネパール、ロルパ郡での戦闘ではマオイスト、政府軍双方合わせて1,000人を超える死者が出ました。昨年から半年間続いた非常事態宣言下で、一般市民、マオイスト、軍、警官、合わせて2,880人の死亡が確認されました。更に、5月25日、3ヶ月の非常事態延長が決まりました。



グルミ共同組合の
コーヒー・ト
レーニングを受
けに来た村人達

最近では、グルミ共同組合のコーヒー・トレーニングを受け、女性達も、チェリーの実を干したり、皮むきをしたり、選別をしたり、パッキングをしたりと、仕事の範囲を広げている。このコーヒーを町（カトマンズ）まで運ぶのは大変だ。途中、兵隊による検問があり、荷物の検査を受けなければならないからだ。



生産者への影響

生産者への影響は、様々な形で現われています。長期に渡るストライキ、村では夜間禁止令がでていますし、カトマンズでも夜間の集会は禁止。市場を如何に安定してキープするかが、今、重要な関心事です。

村へ入ると、生活が厳しいところほど、家族、親戚の結びつきは固いものです。従って、同じ親戚の中に、マオイストあり、警官ありで、争いは好まないのが自然の姿でしょう。外部からの進入者がその中心にいるからこそ複雑な様相を呈しています。そのような活動も、4,000m以上の高地では生活も厳しく、地元民でないと生きていけないので、争いはないようです。

遠隔の地では、検問を通過する必要があり、時間、手間暇がかかりますし、銀行の電話、FAXが切られているところが多く、送金も大変です。場所によっては、銀行も閉じています。町の銀行で信用状を発行してもらい、信頼できる人物にそれを遠隔の銀行まで持参してもらう手間暇は大変なものです。

場所によっては、陸路での運搬を諦め、ローカル空港から首都カトマンズまで空輸して運んでいる物もあります。小さな飛行機で、がさばるカゴなどを運ぶのは大変です。このようにして、奥地からハンディクラフト、紅茶、コーヒー、スパイスを運んでいます。

カンチャンジャンガ紅茶農園とその社会への貢献

矢島万知子

2月24日（日）地球市民かながわプラザ調理室で、カンチャンジャンガ紅茶農園カトマンズ事務所長、ディリー・バスコタさんをお迎えして、公開セミナーを開きました。

ネパリ・バザー口は、毎年2月か3月に、ネパールからフェアトレードの生産者をお招きし、フェアトレードのお店の方々、一般の方々と共にお話を伺い、意見交換をする公開セミナーを開いています。今年もネパールからは、世界でエヴェレストの次に高い山、カンチャンジャンガの麓にある紅茶農園のディリー・バスコタさんをお招きしました。セミナーでは、54名の参加者が熱心にお話を聞き、また、紅茶を作る、売る、買うというそれぞれの立場から意見を述べ合いました。セミナー会場を調理室にしたのは、ディリーさんの紅茶農園のマサラティーをその場で淹れて、参加された方々に味わっていただくためでしたが、会場は紅茶の香りと共に和やかな雰囲気に包まれました。

「紅茶農園で働く農民200人を代表して、ナマスカル（こんにちは）」という言葉で始まったディリーさんのお話は、紅茶農園のこれまでの歩み、今、そしてこれからの希望について、わかりやすく、情熱を込めて語られたものでした。

カンチャンジャンガ紅茶農園は、1984年、カンチャンジャンガの麓、パンチタールで、農業の将来には環境を守る有機肥料を使うべきとの信念のもと、1人ひとりがオーナーであり、働き手であるという理想を掲げ、100人の小規模農民によって作られました。生産物が現金に換えられるようになるまで4年かかりましたが、道路、工場を整備し、オーガニック紅茶の認定を受け、その結果フェアトレード組織を通じてヨーロッパへ多く輸出され始め、人々の生活はだんだん良くなりました。今では子どもたちに教育支援、牧畜のための資金貸し付けまでできるようになったということです。



約60名の参加者で賑わった調理室脇では、休憩時間に味わっていただくマサラティーを準備。



話に熱が入るディリーさん（右）

ネパールでは、全人口の86パーセントが地方に住む農民であり、その半分は国際貧困ライン（1人1日1ドルの所得）に達しない貧しい状況にあるそうです。「日本など外国からの援助は、本当に貧しい人々には行き渡っていません。日本の方々に私達の作るおいしい、新鮮な紅茶を味わっていただくことで、日本の方々は、新鮮な紅茶を、ネパールの人々は、より良い暮らしを手に入れます。フェアトレードこそ、最も貧しい人々のところに届き、生活のサポートになりうるものです」とお話は続けました。

ディリーさんは、フェアトレードの意味を、農園の人々に伝え、社会的文化的な向上を目指しています。天候に左右される作物でも、フェアトレードでは、一定の価格が保障されている点で人々の生活に貢献しています。農園では女性も男性と同じ賃金が支払われており、これは設立時の理想が実現されているということでしょうか。また、ディリーさんはお話の最後で、これからネパリ・バザー口とともに進めていきたいこととして、女の子への教育費の支援を挙げられましたが、その理由としておっしゃったことが印象的でした。それは、その支援による成果は男の子の場合は彼ひとりで終わってしまうけれども、女の子の場合、彼女の家族全員が、そして彼女の次の世代が良くなっていくのだからということでした。

参加者からは、ネパールの農業全般について、紅茶農園での製法についての質問が出ました。そして、有機農法は大変な仕事かもしれないけれど、ネパールの将来にとって意義があるので是非頑張って続けて欲しいという励ましの声も聞かれました。

その日はフェアトレードのお店の方々が全国各地から参加され、夕方からは調理室が懇親会場となり、ボランティアの手による、新発売のシーフードカレー、アチャール、ゴジ、紅茶ムースのお皿を手に、賑やかにお話が続きました。最後のしめくくりには、

「生産者のお話を直接聞けてよかった。商品に愛着がわくようだ。フェアトレードを支えたい」「生産者のお話を聞いて、生き方を理解することができたようだ」「不景気であるが、頑張って続けていきたい」という、フェアトレードに関わる姿勢を語ってください、長い、熱い1日は終わりました。

公開学習会
「カンチャンジャンガ紅茶農園とその社会への貢献」
参加頂いたお店の皆様から

(編集部)

当日、セミナー後のアンケートや、交流会での感想、その後、参加された方々からのお便りなども頂きましたので、ここでご紹介させていただきたいと思います。

＊「オゾン」杉本皓子様（名古屋）

こんにちは、いつもありがとうございます。一昨日2月24日は充実した1日をおかげさまで持つことが出来ました。セミナーや交流会のあい間にも春代表からたくさんことを教えていただきました。昨年11月に伺った時から心の清らかな方だという印象を受けていましたが、今回はスタッフやボランティアの皆さんの静かな中にも固い意気込みが伝わってきました。フェアトレードの心臓が共に働くことで貧困を解決していくプロセスにあることを納得しました。本当にありがとうございます。今後ともよろしく願います。

＊「風'S」土井ゆき子様（名古屋）

試食のお料理を作ってくださいましてありがとうございます。一本筋の通った生き方、全体を見通した生き方を理解することができて、参加した甲斐がありました。

＊「レイコ企画」田中麗子様（西多摩）

飽きない様に商いを続けて行きたい。みんなの元気を頂きました。3月に予定しているネパールフェア頑張ります！

＊ 他のお店の方からも多数のお声を頂きました。ひとりでお店をしていると迷いがなかなか拭い去れないところがありましたが、ここにきて、元気をもらえました。仲間と交流してよかった！等など。

セミナーアンケート回答集より

<講演はいかがでしたか>

＊「バオバブ」横山喜美枝様（厚木）

女性にこそ教育が必要、というディリーさんの言葉を聞いて、おなかに響いた。

＊「和らく」小川いくみ様（福岡）

分かりやすく参加してよかった。お金が貧しい人にまで届いていないのに対して、自然が多い環境を壊さない農法で仕事を通し生活向上できる紅茶を、もっと多くの人に勧めていくことができれば、お互いに楽しくなり、明るい未来に期待できてうれしいです。

--- その他ご感想 ---

＊ マオイストの話が大変興味深かった。これからネパールという国家がどうなって行くのか注目して行きたい。

＊ マサラティーに惹かれて参加しましたが、素人の私にもとてもわかりやすくよかったです。フェアトレードが今後うまく行きますように。人身売買がなくなりますように。

＊ 有機農業、紅茶栽培について、又、フェアトレードでの収入の使われ方がちゃんとすると分かりました。有機農法は私たちにとっても良いことと思います。

<ディリーさんへのメッセージ>

＊「オゾン」杉本皓子様（名古屋）

私たちの政府ひいては私たちの税金が、ネパールの高級官僚に役立っていると思うと腹が立ちます。政治の混乱はネパールだけでなく、日本もそうだとお話を聞きながら感じました。だから、フェアトレードが必要なのですね。

＊「和らく」小川いくみ様（福岡）

頑張って美味しい紅茶を作ってください。頑張って多

ACTIVITY



-e,ü,Ä'±,ç,½S•e&i

くの方にすばらしい紅茶を広めて行きます。そして最後に話された、女性への教育支援はすばらしいことだと思います。

<フェアトレードについてどう感じたか>

＊「オゾン」杉本皓子様（名古屋）

政府のお金の使途が不透明なのに比べ、透明性と信頼を大切にしたつきあいだとディリーさんの話を聞き、納得しました。ありがとうございます。

＊「和らく」小川いくみ様（福岡）

フェアトレード商品を多くの方にお知らせして行きたいです。

<その他の出来事から>

ディリーさんと小田原のお茶栽培農家を訪ねて

滞在日数の少ない忙しいディリーさん。日本のお茶栽培をどうしても見たいとの要望を実現するため、小田原市の「ちえのわハウス」和田さんに紹介のお願いをして、お付き合ひのある生産者、佐藤さんのお茶農園を訪問しました。

有機栽培の難しさを語る佐藤さん。土の匂いをかぐディリーさん。お互いに生産者としての連帯感を持ったようです。

その帰り、以前から連れて行きたいと思ったという、ネパール人が経営するインド料理店を訪ねてみました。その人達は、コーヒーの産地、グルミの出身。疑い深そうに距離を取っていた彼らに、ディリーさんがフェアトレードでグルミからコーヒーを輸入している活動を説明。私たちの活動に驚き、ネパールで紹介された私たちにに関する記事を見せたりするうちに皆熱くなって来ました。

彼らが村にいた頃は、コーヒーの市場がまったく無く生活が大変だったこと、その頃に私たちと知り合っていたら、村で生活していただろうことなど。本音ではどう感じたのだろうか、と思っていると、厨房で、「あの入達、すごい活動してるよ」と話す声が聞こえました。そして帰りは熱い握手に変わっていました。

「ちえのわハウス」さんにとって、フェアトレードのお店に日々立ってお客様の接待をしている立場で、このような声や反応を直接聞いたことは、実感としてフェアトレードの必要性が理解できて大変良かったとのことでした。フェアトレードがビジネスだけではなく、如何に社会に貢献しているかを実感した時でもありました。



小田原の
レストラン
「スーリヤ」
にて。
(右端はディ
リーさん)

活動紹介

国際ボランティアを考える集い

太田昌治

あの神戸の大震災を経験し、それを乗り越え大学を卒業してすぐにネパールの小学校にNGOのボランティアとして赴任した佐野由美さんの、短くも輝く時間と情熱を記録した映画の上映会と、私達が日々、ネパールを中心としたアジアや南の国々の女性や子どもの人権や自立を支援して活動していることを知って頂くための講演が行われました。

去る2月6日の夕方、横浜駅西口の県民サポートセンター2階のホールにおいてネパリ・バザー口代表の土屋春代が「何故いまフェアトレード（FT）が必要か・どうしてFTなのか・FTの効果は・・・」などを1時間に渡りお話をしてから、話題の映画「with・・・」を上映して、佐野さんのネパールでの活動、彼女の人柄や地域の人々との心温まる交流とそこから生まれる矛盾や悩みを赤裸々に映像で伝



え、見る者に感動と課題の提供をしてくれました。

ネパールは、歴史と伝統が今も脈々と生き続けていて、自然の美しい国である一方、世界でも1・2を争う程生活が厳しい国にいて、佐野さんは自分の力で出来る精一杯のことを教え伝え拓げて生きていたのだと思いました。

まだ、ネパールの大半の人々は食べることが精一杯で、学校に行くことがままならない子や殆ど行けない子も多いのが実状です。映画の中でも、言っていますが、学校に行きたいけど行けない、学校を卒業しても、仕事が無い人が多いことの現実と直面し、あの明るく元気な佐野さんが、悩み悲しむ場面がありました。

今、私達が進めているFTの活動をもってしても、この巨大で出口の見えない貧困を即座に解決する術はありません。もっともっと大勢の方々の理解と協力こそが、FTへの応援となって、貧困や虐待、人身売買、児童労働など多くの問題の解決に役立つことになると思います。この映画を通して、貧困のもたらす問題とその問題を無くすためには何が必要かを考えていただく糸口が見つかるかも知れません。

国際フェアトレード・デイ

北山詠美子

欧州の第三世界ショップネットワークNEWS！が毎年5月にセミナーやコンサートなどのイベントをしながらフェアトレードの普及を図って来ました。今年は、世界フェアトレード組織IFATもこのイベントに参加することを決め、5月4日を中心に、約40ヶ国でいっせいに開催され、日本では5月をフェアトレード月間として盛り上げることになりました。

私たちネパリ・バザー口は、「with・・・若き女性美術作家の生涯」という映画を上映し、その後で、代表の土屋春代と、現地スタッフのジャリーナ・シュレスタから、フェアトレードの活動とネパールの現状を講演し、理解を深めることにしました。

「with・・・」は、ネパールで活動した日本の若き女性のドキュメンタリー映画です。縁あって2月6日に講演をお受けしたことから、この映画と佐野さんに出会うことが出来ました。貧困の課題改善にはまず仕事づくりから、と考えて活動している私たちにとって、単身ネパールに渡り、美術を通してネパールの下町に住む貧困層の人々と向き合い、その人々の日々の暮らしに必要なのは、やはり仕事を手に入れ、生活の糧を安定させること、と気付いた主人公の佐野由美さんの思いは、とても共感深く、多くの方に鑑賞して頂くことで、私たちに何ができるかを、フェアトレードの視点から深めたいと考えました。

準備の段階からも幾度も観ていた映像ですが、会場に参加された方の真剣なまなざしとともに観ると想いも一段と深まります。一人一人に深く語りかけてくる由美さんの一途な気持ちに、心の奥に眠っていたなに



セミナー終了後、地球市民かながわプラザのお店「ベルダ」で懇親会を待つ参加者

かを呼び覚まされたかのように、上映の後の講演と質疑応答の時の参加された方々の言葉は普段からの会話にはない、心の奥をぐっとさらけだした白熱したものになりました。子育て中の方や、ネパールに行かれたことのある方、これから行きたいと思っていらっしゃる方、専門で研究されている分野からの真摯なご意見を下さる方など、いろんな立場の方々が、共に深く心に「何か」を刻んだ一日でした。

佐野さんが教え子の家族ぐるみの付き合いを通して受けたショックと無力感、日本にいたときには想像も及ばなかった「貧困」のレベルの違いとその暮らしの実感を通して、自分に何ができるのか必死に考えさせられました。ネパールで差別され、差別してしまう悲しみ、辛さから行きついた「すべての人が安らかに眠れる夜を」という気持ちに、私も小さい事、出来るところからでも取り組んで、大切に育んでいきたいと思いました。そして、教え子に、手に職をつけられるようにとの願いを込めた切り絵指導は、技術を身につけて自立を図るフェアトレードの活動と通じ合い、フェアトレードの活動を大事に進めていきたいと深く感じたひとときでした。

神奈川県立総合高校の国際理解教育とフェアトレード

土屋完二



ワンコイン・コンサートの壇上で挨拶する勝俣さん(前列右)

昨秋、「教育とフェアトレード」のセミナーを約1ヶ月かけて開きました。普段ご協力頂いているお店、高校、大学等11ヶ所、行きたい所全てを回することはできませんでしたが、多くの出会いと成果がありました。

地球市民かながわプラザでのセミナー当日の朝、プラザで、神奈川県立総合高校の「デイ・キャンプ」という教育プログラムがあり、ネパールの文化紹介とフェアトレードの活動を英語で紹介するという時間を頂き、教育が専門のサパナ・シャルマさん、同プラザ内にあるネパリ・バザー口の直営店、フェアトレードのお店「ベルダ」スタッフのマンディラ・シュレスタと土屋完二の3人で参加させて頂きました。

そのことがきっかけとなり、ネパールに興味を抱いた生徒達が主体で国際理解を実践するプログラム、チャリティー・コンサートを1月に実施しました。集まったお金での支援として、私達も協力し、勝俣あやさんを含む生徒の代表の方々と何度も話し合いをもちながら、奨学金を効果的に使用する道を探ることになりました。2月には、支援対象の候補に入っている紅茶農園の方を日本に招いたので、直接、話を聞く機会となりました。



入場の受け付けをする生徒達



現地では、村でもカトマンズでも、何でも支援対象について話合った。写真は、カトマンズでの話し合い。左端から、紅茶農園の責任者、ディリーさん、ネパリ現地スタッフのジャリーナ、会計のチャンドラさん、ネパリ代表の土屋春代

勝俣さん達は、昨年のタイの支援先で、彼女達の支援金がどのように使われたか不透明であったことを反省して、かなり慎重でした。一方的に出す形態の奨学金が適切に使われているかは、モニタリングが大切で、なるべく直接的でない且不透明になるからです。

学校からの支援は、どうしても単年度にならざるを得ない傾向があります。一方で、奨学金は、ある程度継続する必要があります。そこで、私達と協同で支援できる場所を前提に支援先を絞ることになりました。

小さな生産者、生活の厳しい家庭の子ども達で、モニタリングの仕組みができることとしました。

私達の基本姿勢はフェアトレードで支援することが前提ですが、でも、今現在の子ども達をいけにえにするわけにはいかない、何かもっとしなくてはと感じていた時、生徒達の情熱で、私達、そして現地の心ある人々を動かし、新たな社会創りが始まりました。

生徒達の支援先は、同年代との触れ合いも考慮し、遠隔の紅茶農園に外部から働きに来ている生活の厳しい家庭の子どもたちを中心に支援することになりました。何度も生徒間では話し合ってきた。来てました。

このプログラムが成功すれば、その農園に関係する子ども達で学校へいけない子は1人もいなくなります。そして、近隣の生活向上への良い刺激にもなることでしよう。

生徒達自身で、今、まさに、その活動を検討しています。その支援の過程を学ぶこと、その難しさを学ぶことは、とても良いことだと感じています。

この奨学金と併行して、牛を購入するための貸し付けも農園側の配慮が始まります。それが成功すれば、2年後から収入が入り、この奨学金を少しずつ減らせる見込みです。その分は、中学、高校で中退が多くなる女子のサポートに回せば、識字率を向上させて、家庭で子どもに一番影響がある母親の意識向上に役立ちます。その動きは、今、ここから始まろうとしています。

現地スタッフ紹介 私の抱負

ジャリーナ・シュレスタ

皆様、ナマステ。カトマンズに住むジャリーナ・シュレスタです。昨年初めからボランティアとしてネパリのバザール口のお手伝いをし、今年の1月からはネパリのバザール口の現地スタッフとして働くことになりました。今は、3ヶ月の研修のために日本にいます。女性の地位向上を願ってきた私にとって、女性たちの仕事づくりを目指すネパリのバザール口で仕事ができることは何よりの喜びです。

世の中は男性と女性で成り立っていますが、ネパールの場合、女性の立場は、男性のはるか後ろに押しやられていることを、カトマンズという都会に住む私ですら日々痛感します。女性の場所は家庭と台所に限られています。息子は何でも自分で決められるのに、娘は女友達との外出すら親の許可がいります。家事や下の子の面倒も見なければなりません。女性は、父親の、そして結婚すると夫の許可なしには、自分では何も決められません。ネパールは男性優位の社会で、家族の中で決定を下すのは男性です。女性も加わって決めた方が、男性だけで決めるよりずっとうまくいくでしょうに…。不公平、不平等の壁を壊すためには、女性の自立が必要です。女性が自立するには、技術を身に付け仕事を持つという経済的自立が大きく影響します。

ネパリのバザール口は、ネパール製品の調査や促進のため、ネパール各地に散らばる様々な生産者を訪ねています。昨年は私もそれに同行することができました。

ミティラートで有名なジャナカプールでは、様々な芸術品や手工芸品作りに励む女性たちに会うことができました。幼い子どもを連れて働いている女性もいます。村々も訪ね、厳しい暮らしを知りました。壁がなく雨風すらしのげない狭い小屋に何人もの家族が暮らしていました。簡素で着る服も貧しく、カトマンズを出たことがなかった私には初めて見る生活で、心を痛めました。しかし、暮らしがとてつもなく過酷な状況でも、彼らには暖かい笑顔があり、素晴らしい技術がありました。彼らの笑顔を本当の笑顔にするために、しっかりと働かなければと感じました。

東ネパールのフィディムにあるカンチャンジャンガ紅茶農園(KTE)へも行く機会があり、オーガニックの紅茶栽培と紅茶農園の労働者の状況を知りました。



民話のふるさと、遠野を訪ねてネパールとの類似性に感動するジャリーナ

KTEは遠く離れた山間部にあります。村人、つまり農園労働者は、夜明け前に狭く滑りやすい山道を2時間かけて農園に行き、日が暮れて暗くなってからまた家に帰ります。労働者の生活向上を第一の信念とし、フェアトレードの精神で運営されているKTEですが、生活は一度に改善されるはずもなく、外部から移り住み、農繁期のみKTEで働く家族の収入は不安定です。KTEに来る前と比べれば黄金のようによい暮らしになったと語ってくれるものの、日常生活品すら充分にできず、一家庭平均4名の子ども達を学校に行かせることもできません。ネパリのバザール口は、この問題を理解し、労働者の子どもたちへの奨学金支援を決めました(P9参照)。この一歩は労働者のやる気を引き出すだけではなく、ネパールにすばらしい人材を育てることに効果があります。教育を受けた子ども達は国の柱になるでしょう。

私は、ネパリのバザール口の仕事を通して、様々な経験を共有したいと思っています。ネパールは貧しい国ですが、すばらしい技術と資源があります。海外から多額の寄付をしていただいても、本当に助けを必要としている地方の人にはなかなか届きません。私たち自身が自分の国を良くし、自立を目指すために必要なのは、仕事作りです。ネパリのバザール口は生産者を直接訪ね、様子を見て、状況に合わせた工夫をしています。それが、生産者を勇気づけ、やる気を高め、努力をすれば報われると実感させているのです。

私も、お客様に最大の満足を感じてもらえる製品を作るためのアドバイスを、ネパールに戻ってから生産者の方たちに話すことができるよう、この研修を有意義なものにしようと思っています。フェアトレード精神を守り、満足できる製品を作り、そして、熱心に働く貧しい生産者の状況を改善するために頑張ります。

ネパールカレーのレシピ募集！！

来年の2003年春夏カタログでは、ネパールカレーの特集を予定しております。

合わせてネパールカレーのスパイスを使ったアイデアたっぷりのレシピを募集しておりますので、ぜひ、みなさまのご自慢のレシピをどしどしお寄せ下さい。ホーム・スパイスのシターラさんもうならせるレシピを、カレーだけでなく、炒め物や揚げ物、あっと驚く調理法もお待ちしております。締め切りは、2002年8月31日です。みなさまから頂きましたレシピは、2003年春よりご紹介させていただきますので、ぜひ、ご応募くださいませ。



採用の方全員に、マサラ3種類の詰め合わせプレゼント！

「スタッフとして日々感じること」

入澤 崇

ガリガリガリ、四方をしっかりと釘で止められた木箱を鉄のバールで解体します。

それが私のネパリ・バザールでの初仕事でした。木箱のふたを開けると、ネパールのカンチャンジャンガからカトマンズを経由して、はるばる飛行機で運ばれてきた紅茶のティーバックが姿をあらわしました。ひとつひとつカウント、検品しながら別の箱に詰めていきます。どんなところで、どんな人たちによって作られているのだろう、そんなことを考えながら。

それから約半年、日々、紅茶農園に行ったスタッフの話を聞いたり、写真を見たりし、だんだんと紅茶ひとつに対する考えが変わってきました。そして今年の2月、紅茶農園（KTE）マネージャーのディリー・バスコタさんが来日され、彼が真剣にネパールの人々の未来を思い、広い視野で考えていることに感動しました。と同時に、自分の選んだ仕事の責任の重さをひしひしと感じました。単純かもしれませんが、今の自分にとっての最大の使命は「この紅茶を売る」ということでした。一枚の写真があります。それは紅茶農園で働く女性の家で、子どもが大きな瞳でこちらを見えています。踏ん張りどころになると、それを思い出し自分を奮い立たせます。その子がどんなことを考えているかわかりませんが、「こっちも頑張るよ」と勝手に思いながら。

学生時代、バックパックでアジアや中米を旅し、そこでめぐり合ったいくつかの出会いの中で、漠然と「仕事づくりのための貿易」をしたいと思っていたとき、ある人の紹介で代表の土屋春代に会い、フェアトレードという活動を知りました。3年間の会社勤めの傍ら、神戸のフェアトレードショップのボランティアに参加し、フェアトレードを知る、広めるための勉強会やイベントをしてきました。しかし活動をすればするほど、現場を知りたいという欲求が高まり、自分の言葉でフェアトレードを説明できない自分に不満を持っていました。そんな時、幸運にも声がかかりフェアトレードの世界へ飛び込む決心をしたのです。

入った頃はフェアトレードを概念としてしか捉えていませんでした。日々の仕事の中で少しずつ、もっと奥深い多面的なことだと感じ始めました。例えば、ヘナの袋詰めや、カレーのパッケージ詰め、紅茶クッキー作りなどを地域の作業所をお願いしています。ヘナ詰めからカレー詰めに切り替わったとき、「〇〇さん、カレーはどうですか？」と訪ねると「簡単、簡単！」と胸を張ります。目の前で検品するとそれを真剣なまなざしで見つめます。そこにはフェアな関係が成り立っていると思います。利益や効率のみを重視した社会では取り残されてしまう立場にある人々に目を向けて、社会の輪の中に入ってきてもらう、お互いを尊重できる関係を作る、それが本当のフェアなのかなと思います。今まで知的障害を持つ方との接点がまったくなかった私にとって、このよう



事務所で仕事に励む

な経験はとても大切に感じています。

今、私は女性に囲まれて仕事をしています。お客様も9割方女性です。それまでは学生時代は体育会系、以前の勤め先も男性社会でした。ジェンダーという言葉は知っていても、それを経験から考えることは出来ず、頭だけで考えていました。親戚の集まりがあった時、女性が料理の支度をし、台所から遠い方に男性が集まって酒を飲む、この光景になんのためらいも感じませんでした。しかし日々職場の女性たちと話をする中で、「嫌だった」というのを聞き、それに気付かなかった自分にショックでした。「女性の自立がテーマです」と堂々と言っていたのが恥ずかしくなりました。ネパールでは、この「伝統」がもっと顕著だと言います。そんな中、堂々と「ブレイク・ザ・トラディション」を実践しようとしている生産者の方々に会って、お話が聞きたいと思っています。このテーマは私にとってまだまだ経験不足ですが、それを感じ取りにくい立場にある男性に伝える方法を見つけることは、男性の私は合っているかもしれません。

フェアトレードは最後まで責任を持つことだと思います。ネパリ・バザールが10年間かけて生産者を見守り続け、決して見捨てなかったということを仕事をしていて感じます。日々、商品を検品し出荷するのですが、あるときその検品で発生した不良品をほっぽらかしにしていました。直せば出荷できるものを忙しさにまかせてそのままにしていたのです。先輩から「最後まで責任を持たないで何がフェアトレードなのか」と言われ、責任を持つことの難しさを感じました。頭でわかっている、実践は大変だ、これが現場なのかと。

励みになるのが、お客様の存在です。ネパールの状況が芳しくない今、色々な形で励まして頂いています。「ワンピース素敵でした、ありがとう」とか「遅くまでご苦勞様」とかそんな一言がスタッフの励みになっています。あるとき結婚式の引き出物でミティーラのお茶碗をお買い上げ頂いた方が、「結婚式で私（新郎）がフェアトレードとミティーラの説明を出席者にしました、色々教えてくれて有難う」とお電話頂きました。少しずつ顔の見える関係を作っていきたいと思っています。

以前住んでいた神戸を離れるとき、もらった色紙の中に「傷つきやすい心は人類の宝物」という言葉がありました。私はまだまだ、その心をわかってあげることが下手ですが、フェアトレードをする者として、うわべではない優しさを持ちたいと思っています。

ベルダでは、国際協力やフェアトレードについて共に考えていくために、また、協力の対象となっている国々の文化的すばらしさをご紹介しますために、様々なイベントを行なっています。

「手漉き紙で包む光、空間、住まい」

- フェアトレードで創る安全な住まい -

9月29日(日) 13:00-16:30

場所: あ〜すぶらざ

PART I: 女性起業家協会(WEAN)代表でネパール・ウーマン・クラフト代表のシャンティ・チャダさんを招き、山深いところで作る手漉き紙の生産者の様子、最新のネパールの情勢をお伺いしながら、日々私たちにできることを考えていきます。

PART II:

自然素材、古材のギャラリーを営む「住工房なお」鈴木直子さんをお招きして、環境に負荷を与えず健康に良い住まい作りのお話を伺います。生産者に貢献でき、安全な住空間を通じて楽しみながら、素敵な社会創りをしていきます。ドイツの建築家はフェアトレードを意識し、社会と住宅の安全を考えています。

「フェアトレード学習会 / ミーティング等のご案内」

06月16,17日 静岡お茶の郷博物館

06月30日 学習会「ネパール最新情報」

07月14日 ネパール料理教室

09月29日 セミナー「フェアトレードで創る安全な住まい」

「ベルダ」では、楽しい勉強会を連続で行ない気軽に参加出来るものを予定しています。みなさまの参加をお待ちしています!

至大船 至横浜

本郷台駅

地球市民かながわ

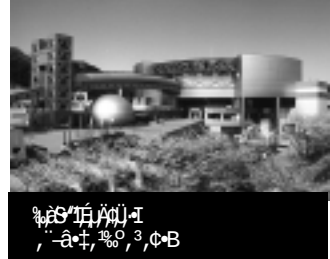
プラザ2F

フェアトレードの

お店 ベルダ

TEL:045-890-1447

FAX:045-890-1448



あ〜すぶらざ
(愛称)

国際理解にお役立て下さい。通信販売カタログ

ネパリ・バザー口では、ニュースレターの発行、フェアトレード関連の本の出版、市民の方々の国際交流、支援への理解を深める活動も行っています。また、フェアトレードの活動に広くご協力頂けるように、通信販売カタログを作成していますので、ご興味がある方はご請求下さい。また、確実に資料が欲しい方、内部勉強会の活動を知りたい方は、購読会員(切手相当の費用として、1,050円)の制度もあります。学校、教育機関へのフェアトレード商品の貸し出し、講演会、お話し会など、開発教育のご協力も実施しています。お問合せ下さい。

ボランティア募集!

イベントのボランティアをはじめ、地域研究と絵本を作る分科会、織と染めの分科会、インターネット分科会など、様々なボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせください。

ネパリ・バザー口のホームページ・・・グループの設立からフェアトレードに関する情報紹介など分かり易く読めます。ご覧になってご意見をメールでどうぞ!

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

ネパールカレーのレシピ募集!!



採用の方全員に、マサラ3種類の詰め合わせプレゼント!

詳細 P10 参照

締切: 2002年8月31日

<編集後記>



危険にもかかわらず村からカトマンズへ出てきてくれた生産者クリシュナさん、紅茶の茶摘みの季節で収穫と販売の損失を承知でカトマンズへ出てきてくれたレブチャのランさん、その他多くの協力者に感謝。今回は、奨学金の仕組み作りにかかなりの時間を割きました。今、事務所では、ジャリーナが研修で来日したのをきっかけに、スタッフ、皆、ネパール語の勉強にも熱く燃えています。(完二)



最近、テレビでネパールを紹介する番組が続いてありました。首都カトマンズや南部の国立公園、西北部の山の村など。それだけを見ていると、政情不安や生活の厳しさを感じることはできません。どこの国でもそうですが、良い点悪い点があります。事実を知る努力と正しい情報を伝えるシステムが必要だ。(完三)



紅茶農園やレブチャの子ども達への奨学金支援も始まり、私たちボランティアの動きも新しいステージに入ったように思います。こういう時には不思議と新規のボランティア参加者も多く、活気溢れるネパリです。(早苗)



青葉の季節。ネパリのスタッフ、ボランティアにも若い人が増え、フレッシュなエネルギーに満ち溢れています。自分達の住む世界を、様々な立場から眺められる彼、彼女等が夢や理想をどのようにして実現させていくでしょうか。母親の世代として、楽しみです。(万知子)



沢山の事を言葉にたくすのはとてもむずかしいと、つくづく感じます。でも小出しに少しずつにじみ出せるように精進しますので、これから、どうぞよろしくお願い致します。(詠美子)

発行: ネパリ・バザー口/ベルダレルネーヨ

247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町274-15

第2中山ビル3階

Tel:045(891)9939 Fax:045(893)8254

<http://www.yk.rim.or.jp/~ngo/>

E-mail: nbazaro@a2.rimnet.ne.jp

印刷: 社会福祉法人光友会神奈川ワークショップ

2002年06月発行

発行責任者: 土屋春代

編集責任者: 土屋完二

編集スタッフ: 土屋完二 魚谷早苗

太田昌治 矢島万知子

北山詠美子

編集協力者: 他スタッフ一同